平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	5	ー	36

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	雄武町母子会運営補助事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		社会福祉係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	山 崎 佳 之		氏名	渡 部 憲 一
事業の概要	母子世帯で組織されている雄武町母子会の活動活性化と、母子会事業の振興寄与及び福祉向上を図るため、会の運営費を補助する。			全体計画 /単年度繰返 （平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	100 千円
					事業費計	100 千円
実施方法	■ 直営		民間委託		その他（　　）	
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～			
	基本施策	8	子育ち・子育ての充実			
	単位施策	4	ひとり親家庭支援の充実			
	事務事業の種類	■	自治事務		法定受託事務	
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	20 千円	20 千円	20 千円	20 千円	20 千円
	合計	20 千円	20 千円	20 千円	20 千円	20 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	雄武町母子会	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	昨今では周囲と親しむ機会が少なくなりがちなため、母子家庭とのコミュニケーションがとりにくい。	運営補助金の交付		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	母子会の活動活性化と事業振興を目指す。	① 交付実績	目標年度	平成23年度
			目標値	20 千円
			実績値	20 千円
			達成度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	行政が関与することが難しい問題などを、母子会会員が、各々の諸問題を相互協力のもとに解決し、生活の一助とする。	② 前年度会員数／本年度会員数	目標年度	平成23年度
			目標値	9 人
			実績値	9 人
			達成度	100 %

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①補助金の交付	雄武町母子会の運営費を補助した。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	母子家庭が増加傾向にある昨今において、母子家庭独特な問題に対し相談を受けることが可能な機関として重要性は高い。また、同じ境遇の家庭との交流の場として精神面においても一役を担っている。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	運営費の補助金と同時に、母子会活動に対する助言や指導を行いながら活性化を促したことで、活動状況が活発化した。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	母子家庭となった方の精神的な支えとなる団体であり、円滑な運営を図る必要はあるが、最小限の補助となるよう努めている。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	今後の活動においては、会員のみならず会員以外の参加も拡大していく取り組みが必要である。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
運営費の補助だけでなく、活動内容等に対しても助言、指導を行っており、効果が確認できた。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
団体の育成は、長期的な関与が必要であり、活動基盤の確立には、一定の時間を要すると判断されることから、当面、現状維持が適当である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）